

世界社会学機構 (IIS) 38th 大会報告

社会主義が人類に一体何を残したか

陳 立行 (日本福祉大学)

世界社会学機構 (IIS) の第 38 回大会が 6 月 26 - 30 日、ブダペストにある中欧大学で開催されました。今回の IIS では、地理的な原因かもしれませんが、東欧の前社会主義諸国にかかわる研究発表が目立ちました。

私は飛行機でウィーンに行き、電車でブダペストに入りました。オーストリアとハンガリーは第 2 次世界大戦前まで、産業の発達もカトリックを中心とした宗教文化も非常に似ていました。しかし、30 年間の異なる社会体制により、ウィーンからブダペストまで電車でわずか 3 時間の距離ですが、2 つの国の違いが恐ろしいほど大きいように感じました。

ハンガリーは社会主義を体制的に収束させただけでなく、イデオロギー的にも徹底的な清算を行いました。ブダペストでは最もにぎやかな andrassy 通りの中心部では、ユニークなテロ博物館があります。この建物は、第二次世界大戦期にはハンガリー極右政党「矢十字党」の本部で、社会主義時代には国家秘密警察 AOV の本部となり、地下には政治犯を拘束する秘密牢獄があります。博物館は主に三つの内容によって構成されています。まず第二次世界大戦のファシスのテロ、それから 1956 年のソ連による武力鎮圧のテロ、三番目には社会主義時代の民衆動員と秘密警察によるテロ活動です。そこで、社会主義を象徴する赤い五星がファシスを象徴した黒い十字といっしょに並んでいたのを見た時、言葉では表せない複雑な感情が湧いてきました。

ハンガリーは 30 年前に社会主義体制を終え、民主主義と市場経済体制を実施し始めました。しかし、社会主義は社会生活の添加剤のように、社会のすべての領域で溶解して、すべての人の社会行為の中にしみ込んでいるように感じました。ウィーンとブダペストの古い建物には、昔日のオーストリア・ハンガリー帝国の雄姿が依然として覗われますが、この 2 つの都市で生活する人を観察すれば、ブダペストの人々の表情と仕事の態度は、オーストリアの人々と大きく異なり、むしろ 20 世紀末の中国人とよく似ています。

ウィーンにいたときいつも地元の人に道を尋ねました。彼らはとても温和で、親切で、英語が通じないとき、ジェスチャーで丁寧に説明してくれる人もいました。しかし、ブダペストの駅に着いた際、最初に感じたのが、人々の顔と表情から窺われる他人に対する懐疑と警戒感でした。毎日、頻繁に耳にさわる警笛の音にも驚きました。地下鉄の駅や本屋など多くのところでほこりが積もっていましたが、従業員たちのチャットをしている姿をよく見かけました。また、サービス態度も 10 年前の中国と似ています。ブダペストの地下鉄は百年前に世界ではじめて開通したことで有名です。ところが、駅のエスカレーターの速さに驚きました。高齢者や障害者は言うまでもなく、私が乗ったときでも、肝っ玉の震えるほどに怖かったです。それほど速いのに事故がないことが信じられません。なぜ調整しないのかと不思議でたまりませんでした。地下鉄の駅では、切符の自動販売機を設ける駅もあれば、窓口で切符を購入する駅もあります。あるとき窓口で切符を買いにいった際、販売員がおらず窓をたたくと、その人が文句を言いながら非常に不愉快そうな顔をして戻ってきました。似たような表情はあちこちで見られました。国際学会のコーヒー

ブレイクでは、コーヒーのおかわりをする時、その店員がコーヒーコップを投げるような態度で渡したので、コーヒーを飲む気持ちも悪くなりました。

さらにびっくりしたのは、中国のレストランの支配人とチャットした際、ハンガリーの政府官僚の腐敗は中国よりも何倍もひどいという話を聞いたときです。私は民主主義の体制をすでに導入したのではないかと問いました。彼は、どの制度と関係なく、権力を手に入れば、誰でも自分のために利益を得ることに一生懸命だと言っていました。彼の話聞いて、周りをよく観察しました。私が滞在したのは普通のホテルではなく、インターネットを通じて予約した高層マンションの一室です。中心部にあってとても便利で、自炊できるキッチンもあります。この部屋を管理する人から、この建物はもともと政府機関の建物で、現在個人所有になったことを聞きました。そのオーナーはハンガリー人で6室を所有し、現在はイタリアに住んでいます。オーナーの昔の職業については教えてくれませんでした。このオーナーが転換期に金持ちになったことは間違いありません。

ごく短い滞在ではありましたが、さまざまな見聞は、社会主義は人類に何をもたらしたのかを思索する機会を再び与えてくれました。

1. プロレタリア独裁を維持する体制は人々に警戒心と嘘をつく習慣をもたらす

K・マルクスは理性主義を前提として、能力に応じて働き、需要に応じて分配する社会主義の公有制の理論を構築しました。しかし、レーニンは公有制を実現するために革命を必要とし、この体制を維持するにはプロレタリア独裁を必要とする理論を提起しました。プロレタリア独裁的社会主義体制の維持が、東ヨーロッパの各国で秘密警察によって統制されました。ブダペストのテロ博物館ではAOV秘密警察の歴代指導者の写真が展示されています。高質な洋服、学究ぶりの眼鏡、顔立ちも整っています。ところが、何か悪魔のような顔が共通していると、一緒に行った人はみんな言っていました。彼らは元々悪魔のような性格の持主だから秘密警察のトップになれたのか、或いは、秘密警察のトップになってから徐々に悪魔のような顔になったのか、皆は冗談めかしながら言い合いました。おそらく後者の可能性が大きいです。目が心の窓、彼らは毎日闘争したり、迫害したりすることで、自分もいつか同じ目にあう恐れがあることを知っています。そうした環境の中で徐々に悪魔のような顔になったのでしょう。

東欧と違い、アジアの社会主義の各国では、秘密警察ではなく、都市の「単位」と農村の「生産隊」に設置された共産党支部の力によって「階級闘争」の理念が徹底され、プロレタリア独裁的社会主義体制が維持されました。その時代では、中国でも他人に対して本音を語ることで階級闘争の対象になり、「右派分子」にされ、苦難の人生を経験した人は何百万人もいました。文化革命中、友達や家族に本音を言って摘発され、「反革命分子」にされて命さえも失った人は少なくありませんでした。この社会環境の中では、他人に対する警戒心や嘘をいうことが、人々の生存のための本能になるのでしょうか。現在、中国では「階級闘争」の理念がすでに放棄されましたが、その厳しい時代に、人を迫害したり、迫害されたりしたことを多く経験した40代以上の人々には、暗い記憶が心の奥深くに刻まれ、彼らの顔には温和で親切な表情がまだ見えないわけです。

2. 社会主義体制は東ヨーロッパとアジアでは意味合いが違う

東ヨーロッパの各国は第二次世界大戦中ファシズムの侵略と統治を受けましたが、戦前は植民地にはされていませんでした。彼らにとって社会主義体制は、第二次世界大戦後の社会主義陣営と資本主義陣営の対立の結果だと思われています。社会主義体制は、ソ連から武力によってまで彼らに無理やり押しつけられたものでした。その時の社会主義政権は、ただ一部のソ連に追随する左翼の政治勢力の選択によるものであり、多くの国民の選択ではありません。そうした背景により、ハンガリーでは、社会主義時期の秘密警察やヒトラーと並んでソ連の武力鎮圧を、民族全体に対するテロと位置づけています。そのため、社会主義体制が崩壊した後に、イデオロギーと民族感情の上で、社会主義に対する清算を行うことが当然の帰結となりました。

しかし、アジアの歴史的背景は違います。第二次世界大戦前、中国、朝鮮、ベトナムは、すべて植民地支配を経験し、第二次世界大戦中、これらの国の共産党は植民者と戦いました。ここから創立した社会主義の政権は民族解放の結果だと捉えられています。特に中国共産党が50年代末にソ連と決裂して以降、社会主義体制は中国の民族の選択という共通認識が強くなりました。この意味で今後中国の政治体制はいかなる方向へ改革しても、イデオロギー的に社会主義を清算することはあり得ません。社会主義革命の中で、すでに民族独立と民族解放とが解け合っただけで済んでいるのです。

3. 公有財産分割が腐敗の根源

ハンガリーでは社会主義体制が崩壊した後に、民主選挙と三権分立の民主主義の制度を導入しました。しかし腐敗の問題は依然として深刻です。三権分立の民主主義の体制は腐敗根絶に最も有効な体制と思われていますが、ハンガリーの現実を見ると、それは甘すぎる考えだと思います。全国民所有の社会主義体制の市場経済への転換にあたっては、必ず、公有財産を私有化する過程を経なければなりません。公有財産を私有化する過程では、社会主義体制の下で形成した価値が崩壊します。伝統価値の復活と新しい価値の再建は短い期間では確立できず、社会全体は道徳崩壊と価値危機の状態に陥ります。この過程では、多くの利益を貪る人が、罪悪感よりはむしろ達成感を得る傾向にあり、一方、利益を得られない人も機会があれば、公有財産の分割を決して見逃さないように一生懸命に努力します。その結果、構造的に三権分立の法体系を構築するのは難しくないのであるが、もし立法、司法、行政に関わる人に対して十分な道徳と価値による拘束がないならば、公有財産の分割を通じて、かえって利益集団のために働くような事態も生じ得ます。この意味において、社会主義から市場経済への転換過程では、三権分立の民主主義体制など如何なる政治体制改革も、公有財産の分割と私有化に伴う腐敗を根治することはできないと思われます。